

### 第78回卒業証書授与式

3月7日、多くのご来賓と保護者の皆様に見守られながら、第78回卒業証書授与式を挙行しました。朝から冷え込んでいましたが、体育館エアコンのお披露目も兼ねて、暖かい環境で実施できました。卒業証書授与、式辞、送辞、蛍の光、答辞、仰げば尊し、ハレルヤコーラス、校歌合唱。全ての内容に、生徒、先生、保護者、来賓、全ての人の思いがこもった感動的な式でした。

当日の「式辞」と「送辞」を紹介します。

なお、「答辞」は、後日、附属中のInstagramで紹介しますので、是非、動画をご覧ください。



#### 令和7年度 第78回卒業証書授与式 式辞（一部略）

…略… 保護者の皆様、本日は誠にありがとうございます。三年前、緊張した面持ちで校門をくぐったお子様の姿が、思い出されるのではないのでしょうか。思春期の揺れ動く心に寄り添い、励まし、支え続けてこられた日々。義務教育を終え、卒業証書を手にしたお子様の姿に、胸に込み上げる思いもひとしおのことと存じます。これまでのご尽力に、心より敬意を表します。また、本校の教育活動に賜りました温かいご理解とご協力に、深く感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんが入学したのは、長く続いたコロナ禍の制限がようやく解け始めた頃。いわば「アフターコロナ」の第一期生。これまでの「当たり前」を問い直し、新しい形を創り上げてきた

学年です。行事の形が変わり、ルールも変わる中、皆さんは持ち前の「優しさ」と「素直さ」で前向きに挑戦し、新たな伝統を築いてくれました。

二年生の終わりから準備をはじめた体育大会では、実行委員会やリーダー会を中心に、理想の大会を追い求める皆さんの熱意に、深い感動を覚えました。

「You & I 優しさ溢れた愛される附中へ」のスローガンのもと、生徒会活動や課活動に真摯に取り組む姿。授業や発表会、ルールメイクの場面で生き生きと対話する姿。部活動での活躍。その一つ一つから、三年生としての誇りと責任を感じました。

中でも、印象深いのは合唱コンクールです。休み時間や放課後、校内のあちこちから響いてきた歌声。本番に向けて心一つにしていく過程そのものが、附属中のエネルギーでした。本番で、県立劇場に響き渡った皆さんの素晴らしい歌声。皆さん自身も、全身で感じ取ったと思います。そして、最後に全員で合唱した「校歌」。学校中の思いが一つになった瞬間、私は久しぶりに鳥肌が立ちました。

さらに皆さんは、「探究活動」を本格的に軌道に乗せた学年でもあります。自他の幸福のために課題を見つけ、調べ、考え、行動する。その姿は、これからの附属中の大切な礎となりました。

門出にあたり、皆さんに二つのことを伝えます。

一つ目は、「失敗を恐れず挑戦してほしい」ということです。

自動車メーカーのホンダの創業者、本田宗一郎さんは、こう語っています。「私がやった仕事で、成功はたったの1%。あとの99%は失敗の連続だった。」

そして、失敗した社員に、こう声をかけたそうです。「おめでとう。その方法ではだめだと分かったのだから前進だ。」

失敗は恥ではありません。挑戦した証しです。

皆さんも探究活動の中で、思うようにいかない経験をしたのではないのでしょうか。課題を設定しても、計画通りには進まない。結果が出ない。それでも相談し、工夫し、試行錯誤を重ねてきたはずです。

昨年十二月の探究発表会には、探究でお世話になった地域、行政、企業など、多くの方々がお越しく下さいました。そのほとんどの方が、こうおっしゃいま

した。「熱心に取り組んだ生徒さんが、どんな発表をするのか見たくて来ました。」と。試行錯誤しながら、挑戦し続ける皆さんの姿が、周りの人の心を動かしたのです。

二つ目は、「他者の挑戦を支える人であってほしい」ということです。

失敗を恐れずに、と言いましたが、失敗はやはり怖いものです。笑われるのではないか、否定されるのではないか。そんな不安がよぎります。また、現代社会では、効率や完璧さが求められる風潮もあり、挑戦すること自体が勇気のいることかもしれません。だからこそ皆さんは、挑戦して失敗した人に「大丈夫、次につなげよう。」と言える人であってほしいのです。

それこそが、本校の綱領「響きあい」の精神です。違いを認め合い、挑戦を応援し、失敗さえも共に学びに変えていく。そんな環境があつてこそ、人は安心して挑戦し、前に進むことができます。皆さんは三年間で、その力を確かに育ててきたはずです。

失敗は終わりではありません。挑戦の途中です。どうか恐れずに、一步を踏み出してください。そして周りの人の挑戦を温かく支えてください。その姿は、必ず周りの人々を動かし、新しい道を切り拓いていく力になります。

その積み重ねが、より強く、より温かな社会をつくると、私は信じています。卒業生の皆さん、皆さん一人一人の前には、新たな道が広がっています。どんな道を歩もうとも、母校附属中での日々に誇りを持ち、自分の志を抱き、自分の歩幅で進んでください。

皆さん一人一人の人生が、挑戦と温かな響きあいに満ちたものとなることを心から祈り、祝福と感謝の気持ちを込めて、式辞といたします。

## 令和7年度 第78回卒業証書授与式 送辞 (一部略)

…略… 思い返せば、私たちが入学してから今日まで、先輩方には本当に多くのことを教えていただきました。

入学式では、緊張と不安で胸がいっぱいだった私たちを、「青葉の歌」と校歌の素晴らしい合唱で温かく迎えてくださいました。その重なり合う歌声に心を打たれ、私もこんな附中生になりたいと思ったことを覚えています。

体育大会では、自分たちの競技だけでなく、私たちの応援にも全力で取り組み、共に喜んでくださいました。最高学年として団を率いる姿はとて頼もしく感じました。解団式で流された涙は、本気で勝利を目指

し、本気で取り組んでいた証であり、強く心に残っています。合唱コンクール前には、私たちの教室まで足を運び、歌への助言をくださいました。先輩方の歌声の重なり、団同士が互いに高め合う姿は、「響きあいの精神」そのものでした。

先輩方との数々の思い出の中でも、私にとって忘れられない出来事があります。最後の中体連に敗れ、涙を流していた私に、先輩方は「次はお前たちの番だぞ。頑張れよ」と声をかけてくださいました。本当は先輩方の方が私たちよりもずっと悔しかったに違いありません。そんな中でも周囲を思いやり、優しい笑顔で励ましてくださったその温かさに支えられ、私は前を向くことができました。卒部後も変わらず気にかけてくださったことに、心から感謝しています。

それ以外にも、探究発表会の前に緊張していた私にあたたかい言葉をかけてくださったこと。部活動で泥にまみれ、懸命に打ち込む姿。親身になってくださった数々のアドバイス。課活動で学校のために自ら考え、行動されていた姿。何気なくすれ違った時に話しかけてくださったこと。

その一つ一つが、私たちの支えとなり目標となっていました。先輩方の後輩でいられたことを、私たちは誇りに思います。本当にありがとうございました。

明日からは、困ったときにすぐに先輩方に頼ることはできなくなります。もちろん、寂しさや不安はあります。しかし、先輩方が残してくださった足跡は、この学校にも、そして私たちの心の中にも確かに刻まれています。私たち在校生は、その思いを受け継ぎ、この熊大附属中学校をさらにより良い学校に築き上げていくことをここに誓います。

先輩方はこれから、それぞれの道で新たな挑戦に出会われることと思います。この学校で培われた力や、共に過ごした仲間、先生方との日々はきっと支えとなり、未来へ進む勇気へと変わっていくことでしょう。どのような道を歩まれても、この学び舎で育まれた思いは色あせることなく、先輩方の未来を力強く

照らし続けるはずですよ。私たちは、先輩方がそれぞれの場所で、さらに大きく羽ばたかれることを信じています。

先輩方のこれからの人生が希望に満ちたものでありますように。そしてさらなるご活躍とご多幸を心よりお祈り申し上げ、送辞といたします。



在校生代表 生徒会副会長